

会 議 記 録			
会議の名称	総務文教常任委員会		会議場所 全員協議会室 担当職員 小川
日 時	令和8年1月21日（水曜日）		開 議 午前10時00分 閉 議 午後 3時00分
出席委員	◎竹内 ○三上 原野 小林 浅田 山本 松山 福井		
執行機関 出席者	山本政策企画部長、川内企画調整課長、横山企画経営係長、 竹村SDGs・企画推進係長 三宅生涯学習部長、小塩生涯学習部文化芸術担当部長、元古人権啓発課長、白波瀬人権 啓発課副課長兼啓発振興係長事務取扱、岡田文化芸術課長、森文化振興係長 牧野総務部長、藤本自治防災課長、谷口自治防災課副課長兼自治振興係長事務取扱 石津防災・危機管理係長 森岡会計管理室長兼会計管理者、数井財産管理課長、西出財産管理課副課長兼資産マネ ジメント係長事務取扱、 中川教育部長、飛田教育次長、数井教育総務課長、小林社会教育課長、森岡人権教育担 当課長兼社会教育係長事務取扱、田中児童クラブ事業推進係長、山口社会教育課主幹		
事務局	吉田事務局長、小川事務局次長		
傍聴	可	市民1名	報道関係者1名 議員3名（小川、大塚、木村）

会 議 の 概 要

10:00～

1 開議

【事務局日程説明】

2 案件

(1) 行政報告

【政策企画部】

- 毘沙門荘整備について
- 開庁時間短縮について
- 地域商社設立について

(政策企画部 入室)

政策企画部長 あいさつ

『毘沙門荘整備について』

企画調整課長 説明

14:03

《質疑》

<福井委員>

最終的に所管はどこになるのか。

<企画調整課長>

主に文化交流体験施設として位置づけるので所管は生涯学習部であり、観光の機能も持たせるので産業観光部も関連する施設となるが、所管は生涯学習部となる。

<福井委員>

事業概要がわかりにくい。

<企画調整課長>

9月議会での質疑の際は迎賓館とすると説明したが、方向転換をするわけではない。建物そのものが文化的な価値を有する施設である。VIPをもてなすには最適な施設である。しかし、VIPをもてなすことに限定した施設とすることは年間に数回しかつかわない施設となってしまうので、幅広く使える施設として整備する方向で考えている。

<小林委員>

盛りだくさんの内容であるが、実際に運営する段階で費用が発生するが、運営と管理にどれだけ費用を見込んでいるのか。

<企画調整課長>

将来的には自主運営できる施設にすることを考えている。宿泊料、利用料の金額の設定が必要と考えている。近隣の施設を参考にして料金設定を考えていきたい。幅広く市民に使ってもらえるよう減免措置も必要であると考えている。

<小林委員>

自主運営できる期間はどれくらいと見込んでいるか。

<企画調整課長>

これから具体的に検討してまいりたい。

<松山委員>

令和8年度に実施設計を行い、令和9年度に工事着工と説明を聞いたが、工事費の積算の根拠を示してほしい。

<企画調整課長>

建物工事として16,000万円、外構工事は3,600万円を見込んでいる。附帯する管理費用を含めて、合計29,825万円を見込んでいる。実施設計はこの工事の規模に伴う積算をして2,294万円を見込んでいる。

<松山委員>

プロジェクトメンバーが算出したのだろうと思われるが、目視のみで算出が可能なのか。

<企画調整課長>

古民家の独特な施設であるので経費が上積みになっている部分もある。建築士と古民家再生を手がけられた委員から点検していただき、これまでの施工の例などを参考にしながら積算したものである。

<松山委員>

概要を達成するためにこの施設を整備することが説明で分かる。川東地域との地域交流が生まれ、亀岡市がイメージするものにどういった形でつながるのか。関係人口が増えることにより、地域の担い手不足がどのように解決されるのかももう少し詳しく説明を願う。

<企画調整課長>

関係人口についてはふるさと住民登録制度を進めている。登録していただいた方をこの施設に招き、地元住民との交流を深める中で川東地域の魅力を理解していただく。まずはお祭りに参加していただく。お祭りや農作業の担い手に結びつけるような関係性を構築していく。そのための拠点施設として整備していきたいと考えている。

<山本委員>

関係人口でふるさと住民登録者は、担い手不足を解消していくための拠点施設と聞きたが、川東地域の課題を取り組むことに限定した拠点施設なのか、それともどのように広げていこうと考えているのか。

<企画調整課長>

地域を限定することなく、各地域の課題解決ができる施設に発展すればよいと考えている。まずは川東地域を先に取り組むことを考えている。

<山本委員>

運用していくために担当をどう考えているのか。宿泊は受付と飲食を伴うが全体的に運営をどのように考えているのか。

<企画調整課長>

施設の管理は今後検討していくことになるが、例えば指定管理制度の利用もしくは業務委託にしようと思うが、どの方法がベストになるかを今後検討をしてまいりたい。幅広く活用する施設となるので、それぞれの関係部署が関わり進めていくことになる。

<浅田委員>

建物が完成すれば川東地域に限らずいろんな方に注目される施設となる。川東地域に大きな負担がかかることにならないか。

<企画調整課長>

地域に丁寧に説明をする中でご理解を促して事業を進めてまいりたい。

<松山委員>

吉川町に新たに開設されるめぐるステーションのように拠点ごとに整備をしていく一環として毘沙門荘があるのか。本部拠点がどこになるのかわからない。川東地域の観光振興とか

を中心にした施設とするのは構わない。3つ目の担い手不足を解消することを中心にした施設なのか。

<企画調整課長>

メグルステーションは環境の視点で整備がされている。どれだけの拠点施設を増やしていくのかはこれから議会で審議をしていただくことになる。めぐるステーションは環境を中心にして副次的にいろんな機能を持ち合わせていく施設として整備されている。今回の毘沙門荘は文化交流を位置づけとして副次的にいろいろな機能を持たせる中でいろんな交流ができる施設にしていく。

<福井委員>

そもそもなぜ3億円をかけてこのような機能を持たせた施設を整備をしなければならないのか。亀岡市政の推進上なぜここに施設が必要なのか。

<企画調整課長>

文化交流体験施設の機能を中心として、特に滞在型観光にも担える施設にもなりうる。亀岡市は通過型観光から滞在型観光が課題になっている。この解決ために滞在型観光への転換を果たすための施設が必要と考えている。保津川下りのVIP乗車をされる方の時間待ちの間に日本文化にふれる観光場所のニーズもある。保津川下りから近いということもあって、VIP（富裕層）をもてなすために使いやすい位置にあると考えている。オーバーツーリズムで日本の文化に触れたい環境客を呼び込める施設になり得ると考える。地理的な部分で立地的にもよい場所にある、日本らしさを感じられる施設が市内にないので一定の目的にかなうと思う。

<山本委員>

滞在型となれば、保津川下りの時間待ちの中で食事ができると説明を聞いたが毘沙門

荘でも調理ができるのか。

<企画調整課長>

30畳の広間で食事を楽しみ、日本庭園を見渡すことができる。

<山本委員>

料理をここで作って提供するのか。外部で作った料理を持ち込むのか。

<企画調整課長>

これから具体的に検討していきたい。ニーズに応えられるように厨房を作ることになるかと思われる。

<原野委員>

非常に立派な施設になろうと思われるが地域の方の意見の聞き取りをして、前向きな意見もあれば消極的な意見もあろうかと思われるが。意見を参考にしたところがあるのか。

<企画調整課長>

地域住民に聞き取りはしていない。委員会の中で亀岡市在住の建築士の意見を取り入れている整備内容となっているので市民への意見を参考にしたことになっている。

<原野委員>

川東地域の地域資源のネットワーク化は店舗や工房の方に聞き取りをした上でネットワーク化してほしいとの意見が見えてきたことからこそ、ネットワーク化を目指すことになったのか。

<企画調整課長>

今回に限って聞き取りをしているわけではない。従来からそのような課題があると認識している。

<原野委員>

行政として認識したのか。これまでの交流の中で出てきたことなのか。

<企画調整課長>

地域との交流で認識した部分もあれば、行政の認識した部分もある。

<原野委員>

実施設計を行う中で内装の改修工事も含まれているのか。

<企画調整課長>

内装と備品の購入もこの工事費に含まれる。

<原野委員>

市内の民泊営業をしている施設もあろうかと思うが類似した施設の稼働率も調査したうえでの工事費等を積算したのか。

<企画調整課長>

宿泊の稼働率を反映していない。

<原野委員>

宿泊料金も具体的に考えられていないのか。

<企画調整課長>

近隣の民泊施設の宿泊料金も調査したうえで検討していく。

<原野委員>

維持管理をしていくためには地域の方が利用されると減免もすることを両立させて運営することは非常に厳しいのではないかと。立地のよさだけでなく、観光施設としてインバウンドを呼び込むためには交通の整備も必要ではないか。人が来る流れがない限りがこの施設に人が集まることがないと思う。魅力発信のために文化交流と国際交流をする拠点にしていくのではあれば、具体的な発信を検討されているのか。

<企画調整課長>

これから具体的に考えてまいりたい。情報発信が非常に大切になるので、あらゆる媒体を用いて、ターゲットも考えて具体的にプロモーションを考えていきたい。

<原野委員>

予測がつかなさ過ぎて、川東地域の住民への聞き取りをせずに、委員の中に亀岡市内の建築士がいるのでその方の意見が地元の意見としていていることについて、やはり市民の方の意見が重要であるのではないか。これが出来上がったときにこれで使って下さいというのは市民が本当に利用するかどうかは予測がつかない。まず地域の方にこれだけの工事費をかけて整備していくことを周知して受け入れられない限りは非常に遠い存在になってしまわないか。今後の報告もより詳細に説明を受けたい。

<企画調整課長>

本件は9月議会で附帯決議をいただいた案件であるので、まずは議会のご理解をいただいてから地域に入ることにする方がよいのではと考えている。3月議会で予算を提案し、予算として認めていただかなければ前に進めることができないと考えている。予算を認めていただいてから地域に丁寧に説明に入っていきたいと考えている。

<松山委員>

耐震の点検はどのタイミングで行うのか。

<企画調整課長>

事業費の算出の中で、耐震の調査を積算している。

<松山委員>

毘沙門荘の建築年数は何年か。

<企画調整課長>

明治時代に建造された建物である。

<小林委員>

3月議会に向けて、持続可能な施設になるかどうかの根拠をはっきりとした説明を要望する。

<竹内委員長>

詳細なデータを根拠にした資料を下に説明されたい。そうでないと可決が難しいと考えているので要望とする。

<福井委員>

亀岡市が毘沙門荘にそもそもこういう機能を持たせた改修をなぜする必要があるのか。必要か必要でないのかをこの委員会では読み切れない。

<三上副委員長>

見通しが不透明なことから明らかにされたい。6人の委員がいると聞いた。その委員の中に亀岡市内の建築士がいるとも聞いた。建築士はこういう主旨の建物を造ることに意見が言えてもこういう使い方ができるとはっきり意見ができないと思う。こういう使い方をすればよいといえるのは離れにのうみの指定管理者はチオリアライアンスさんでした。そのだれが委員になっているのか。6人の委員を公開できないのか。

<企画調整課長>

市内の建築家3名は、本間一級建築士事務所、^{うーずあーていくす}UZUarchitects、ミンアーチの3事業所である。うち1名は海外から移住された方である。離れにのうみの指定管理者株式会社ちいおりアライアンスからは板尾氏に加わっている。古民家再生協会は代表の畑氏、東洋文化学者のアレックスカー氏にも加わっている。

<三上副委員長>

これから委員会としてはチェックすることが多過ぎる。いろんなことに広げていく。また可能性を広げていくということについて、例えば(3)は2つのことが書かれている。ふるさと住民登録者等による担い手不足の解消に寄与するとか地域の魅力発信につなげることといえ、単なる観光案内所でもいろいろな取組によって変わってくる。川東地域の地理の案内だけにするのか、ふるさと住民登録者とともに行動をするのか、地域のネットワークも加わるのか、施設を管理する人と観光案内を別にするのか、いずれにせよ直営では無理なはずである。指定管理制度を利用することも決まっていな。ふるさと住民登録制度を先駆けて、昨年末にプロポーザルで事業者が決まったところである。3月末からふるさと住民登録制度が始まるので、この制度もこの委員会で見えていかなければならない。またそれが全部できるのかとか本体がどこにあるのかといった意見も含めて、引き続き政策企画部で行うことが必要ではないか。本当にこれだけのことをするのにどれだけの運営費用がかかるのかとか本当に自主運営ができるのかを見ていかなければならないので、引き続き情報をもらわないといけない。

<竹内委員長>

市民福祉の増進につながるのかどうかにつける。今までの議論を次回に説明できるようにしてもらいたい。

(質疑終了)

11:00

『開庁時間短縮について』

企画調整課長 説明

《質疑》

<原野委員>

庁内アンケート結果の開庁時間に関する事で例えば健康福祉部の窓口で16時半までに受付を済ませて、市民課に16時30分少し前の時間に申請者が窓口に入ったときに、閉庁するために一律に窓口を打ち切りして、市民からクレームを受けた事象があるのか。

<企画調整課長>

16時30分時点で受付した申請に関しては時間が過ぎても対応している。受付時間が16時30分になることをホームページのトップページに掲載されていなかったの知らなかったとの指摘を受けたことがあった。

<松山委員>

業務改善につながっているか。改善しているが実際に弊害が出ている例があるのか。

<企画調整課長>

業務改善は財政的な部分は市民課では対前年同月比50%の時間外勤務の削減につながった。時間外に残務処理に費やした業務を前倒しにより時間外が減ることにつながった。今後全庁的に広げていくには把握しきれていない部分もあろうかと思われるが、運用する中で課題が出てくる度に一つ一つ丁寧に対応していくつもりである。

<三上副委員長>

今年5月から運用するというのは今年3月の繁忙期を避けて実施することになるが、来年3月の繁忙期でも時間短縮を実施するのか。

<企画調整課長>

原則時間短縮の実施を考えている。異動の多い時期、例えば3月中旬から4月中旬に

かけては市民課を中心に窓口業務時間の延長をすることも考えていかなければならないと考えている。運用する中で状況を見て判断していきたい。

(質疑終了)

11:15

『地域商社設立について』

企画調整課長 説明

＜質疑＞

＜松山委員＞

地域商社の社長は誰が就任するのか。

＜企画調整課長＞

亀岡商工会議所前会頭の川勝氏の起用を考えている。

＜松山委員＞

マーケティング部長は民間から登用されることから誰が就任するのか。

＜企画調整課長＞

マーケティング部長は国の地域人材派遣制度を利用してサントリー株式会社から派遣を依頼している。任期は2年間とする。

＜小林委員＞

売上について内容は、こういう市場にどういうものを持って行くのか調査したか。

＜企画調整課長＞

初年度当初は有機米の販路開拓を計画中である。学校給食に使っているが、別に有機米を確保する中で売る場所を開拓できていないことから販路開拓を進めてまいりたい。米粉も一定需要があるため、米粉を生かした商品開発。有機野菜の販路開拓が十分でないので販路開拓をしっかり行い、ふるさと納税の製品につなげたい。

＜小林委員＞

学校給食で有機米を一定量を確保している。しかし、生産を辞める人もいるので生産の確保対策はどのように考えているのか。

＜企画調整課長＞

オーガニックの推進は産業観光部で推進するが、商社は売る稼ぐが目的である。販路開拓をして一定の需要があり供給が追いつかない場合は市外の有機米を確保して開拓する予定である。

＜三上副委員長＞

学校給食では有機米が全て賄い切れていない。中学校給食が始まるとなお賄い切れない中で、有機米は地域商社が仕入れて学校給食に売って利益を得ることになるのか、販路開拓を問う。

＜企画調整課長＞

有機米そのものを売るということは将来的なことである。まずはパックライスにして売る。三上副委員長の指摘はもっともである。一定生産量を確保できれば、パックライスにした商品を開発して市場に売ることができると考えられている。学校給食に影響が出ない範囲で商品開発を進めていく予定である。

＜三上副委員長＞

学校給食への有機米は別に確保した上で、別途商品開発をすることであれば理解できた。

(質疑終了)

11:30

(企画管理部 退室)

【生涯学習部】

○令和7年度 保津ヶ丘文化センター・児童館耐震診断結果について

○令和7年度 旧犬甘野児童館解体について

○旧別院中学校の利活用について

(生涯学習部 入室)

生涯学習部長 あいさつ

『令和7年度 保津ヶ丘文化センター・児童館耐震診断結果について』

人権啓発課長 説明

11:35

《質疑》

なし

(質疑終了)

『令和7年度 旧犬甘野児童館解体について』

人権啓発課長 説明

11:35

《質疑》

<三上副委員長>

犬甘野児童館と老人センターの併用施設であるか。

<人権啓発課長>

旧犬甘野児童館と老人センターの併用施設である。

<三上副委員長>

旧犬甘野児童館の敷地は芝生を敷く計画であるので、今後も併用施設として設置するのか。

<人権啓発課長>

今後も併用施設として設置する。

<三上副委員長>

利用されている方や職員も行事等が重ならないように工夫している。児童館活動を持続するには備品等の設置やスペースがほしいが、今後も併用施設としていくのか。

<人権啓発課長>

今後も西別院町の児童数の減少を受けて併用施設として設置する。

<三上副委員長>

基本は児童の減少が背景にあっても本来併用が常態化することに疑問がある。児童と高齢者との交流という面では長所があるが、今後の動向を注視するべきと思う。

(質疑終了)

『旧別院中学校の利活用について』

《質疑》

＜山本委員＞

東別院町の活性化のために旧別院中学校跡地の活用に向けた取組に参加したことがあり、感動することが多くあった。しかし、旧別院中学校跡地は交通が不便であることと下水道が未整備であり、飲食ができないことと継続して活用することに課題がある。来年度に向けてどのようなことができるのかを検討するに当たり、課題が多いのではないかと考えている。地元住民へのアンケート調査結果では、みんなが集える場所とする要望があることもわかっている。しかし、機運が高まっていない。地元住民からはワークショップをすると行きにくく、イベントをすると参加意欲があると聞く。今後、住民参加を促していただくのに工夫が必要であるが、今後の対応をどのように考えているのか問う。

＜文化芸術課長＞

今年度は住民参加を促したが参加者の確保に課題が残ったと反省している。今後はいろんな方に参加してもらい、地域の活性化の機運を高めるための議論を重ねていきたい。施設では上水道では給水量の限界がある。校舎屋上に受水槽があり、受水槽に水をくみ上げて給水する仕組みであるが、給水管の老朽化が一部見られることとトイレの水が流れにくいことがわかった。また今後、ワークショップが参加しにくいのご指摘も事業をして理解しているところであり、参加促進に向けた工夫をしてまいりたい。

＜山本委員＞

運動場の草刈りや校舎内の清掃に協力していただいていることに感謝している。今後の利用活性化に施設の維持管理は不可欠である。

＜松山委員＞

今後地域の活性化を含めた利活用についての道筋をどのように考えているのか。

＜文化芸術課長＞

3カ年計画で考えており、今年は1年目である。小規模で旧校舎を中心にした地域全体での活用をした。関係者を増やすことにより効果検証を行う方向でいる。現時点で具体的な取組案と予算案はない。3カ年計画に基づき実行し、その中でさらに次の計画を検討してまいりたいと考えている。

＜松山委員＞

来年度予算編成はどのように考えているのか。

＜文化芸術課長＞

京都芸術大学への業務委託料を予算計上し、議会へ提案予定としている。

＜竹内委員長＞

旧別院中学校の発表会に参加した。学生等の発表を受けた後、地元住民が集って意見交換をした場面があったのか。ある場合は今後の展開を問う。

＜文化芸術課長＞

説明会の後に自治会長と話をする機会があった。取組は良かったという意見を聞いたが具体的な意見を聞くことがなかった。自治会長は今後も地元とともに活用を考えていこうという意見であった。

＜竹内委員長＞

市の方向性の見解もあろうと思われるが、その方向性と地元住民の意見との balan

スを考えながら、よい取組につなげられたい。

(質疑終了)

12:10

(休憩)

12:10~13:15

【総務部】

13:17

○カーシェルター野水設置条例について
○亀岡市消防団アンケート結果について

(総務部 入室)

総務部長 あいさつ

『カーシェルター野水設置条例について』
自治防災課長 説明

13:17

《質疑》

<浅田委員>

ここは最大何台駐車できるか。

<自治防災課長>

最大200台まで駐車可能である。

<山本委員>

設置条例ができてから車中避難場所として具体的な対策に講じる必要はないか。

<自治防災課長>

運用方法は各避難所を開設する中で、避難場所に自動車が集まらないように各場所に誘導して避難できるようにしたい。

<山本委員>

目的外使用を具体的に挙げるとすれば何があるか。

<自治防災課長>

地元でのイベントとして例えば牛々祭りなど、公共の臨時駐車場が考えられる。

<三上副委員長>

今後引き続き予算化するものはないと考えてよいか。

<自治防災課長>

予算化するものはなく、完成したと考えている。

<三上副委員長>

水の供給とか備蓄は十分か。

<自治防災課長>

600人の避難想定であり、マンホールトイレの許容量を持っている。

(質疑終わり)

『亀岡市消防団アンケート結果について』

自治防災課長 説明

《質疑》

<浅田委員>

班を統合してほしいという意見を聞いたことがある。どこの分団も新入団員の確保が難しいからである。現状での対策をどう考えているのか。

<自治防災課長>

消防団員の報酬を上げていくなど、処遇改善に努めることで対策を講じて行くほかに考えている。

<浅田委員>

地元に生活基盤がない消防団員もいる。整備した場合に存在した分団がなくなるといことがないように要望しておく。

<三上副委員長>

貴重な意見であると見ている。アンケート回答は、真面目に取り組んだ団員の意見と見受けられる。訓練にどれぐらい参加したのかという実態が見えてくるのでアンケート調査も大事なことと見受ける。よりよいものに工夫していただくことを願う。

<自治防災課長>

分団ごとにすると意見が特定されることにつながるので今回はこのようなアンケート調査にした。今後の体制をどうするのかを考えていく中で、このアンケート結果に基づき改善を目指したい。

<松山委員>

ブロック単位で定数を見ていく方法も1つの考え方だと思う。今の制度でイレギュラーな事象が起こることがないのか。広域に考えていく方法とか現時点での考えはあるのか。

<自治防災課長>

現在は5ブロックに分けている。分団の中で編成体制は分団長副分団長部長班長と役割が決められている。ブロックについては分団の中で検討していただきたいと思う。

<竹内委員長>

アンケート結果を公表するのか。

<自治防災課長>

消防分団の幹部会議を2月に開催予定である。幹部会議で説明する方向である。

(質疑終了)

13:30

(総務部 退室)

【会計管理室】

○余部町谷川尻他地内に係る市有地境界確定調査測量等業務について

13:35

(会計管理室 入室)

会計管理室長兼会計管理者 あいさつ

『余部町谷川尻他地内に係る市有地境界確定調査測量等業務について』

財産管理課長 説明

《質疑》

<福井委員>

圃場整備のときに京都府と亀岡市が境界画定したのか。

<財産管理課長>

国営事業として当時の農林省が圃場整備をして換地処分をしたと認識している。

<福井委員>

廃川敷きが京都府と亀岡市の土地が混在していると認識していたが、それで間違いな
いか。

<財産管理課長>

もともと川であり京都府の所有地であったが、川でなくなったため法定外公共物と
して亀岡市が管理するようになった。

<福井委員>

亀岡市所有の土地として境界画定したらよいとの認識でよいか。

<財産管理課長>

そのとおりである。

(質疑終了)

(会計管理室 退室)

13:55

【教育部】

14:00

○令和7年度 かめおか児童クラブアンケート結果について

(教育部 入室)

教育部長 あいさつ

『令和7年度 かめおか児童クラブアンケート結果について』

社会教育課長 説明

14:05

《質疑》

<松山委員>

子ども同士のトラブルについて、すでに一定終息に向かっているのかもしくは対応済
みなのか現状を伺う。

<社会教育課長>

トラブル発生時は事象が起きるたびに社会教育課へ連絡があり、適切に指導・対応し
ている。必要に応じて指導員が現場に向いて、保護者への説明と学校との連携、怪
我をしているときは保健教諭とも連携を図っている。

<山本委員>

長期休業期間中の朝の開始時間を早めることについてアンケート調査の質問項目が

なかったが、ニーズの把握をどのようにしているか。

<社会教育課長>

今回は「その他」の欄で意見を記載する項目設定をしていた。夏休み期間はできるだけ早く開設できるようにしている。これ以上早めることに限界があるので、支援員の配置体制を見直すことによって、次年度に体制を整えるように考えている。

<山本委員>

保護者から長期休業期間中の朝の開始時間を早めることの要望があれば、業務委託も含めて今後検討をすると理解してもよいか。

<社会教育課長>

運営体制の見直しを進めている。持続可能な体制ができないか検討している。他市の状況も調査する中で考えている。

<山本委員>

判断基準を持っているのか。

<社会教育課長>

特に判断基準を設けていない。社会経済情勢や働き方多様化も基準になる。利用される方が働きやすい状況を考えながら取り組んでいきたい。

<原野委員>

支援員の対応に全く満足していない層の具体的な理由を把握しているか。

<社会教育課長>

チェック項目の回答のためどこまで満足されておられないかを推し量ることができない。記述回答を多くいただいている。「現在の体制の限界」「支援員の手に負えない」などが要因と推測される。

<三上副委員長>

施設の古さやスペース不足など、環境整備には引き続き予算をかけてほしい。

<社会教育課長>

環境整備は継続して取り組むべき課題ととらえている。子どもが安全・安心に過ごせる居場所作りのため、適切に予算も確保しながら対応していきたい。

<山本委員>

「その他」は51件の記載があったと伺ったが、その内容を問う。

<社会教育課長>

「その他」には、非現実的な記載が多く含んでおり、参考に出来ないと考えている。

<三上副委員長>

保護者とは別に支援員・補助員からも無記名でアンケート調査等、意見を聴取する機会を設けているのか。

<社会教育課長>

面談や定期的な研修会を通じて人材育成を行っている。主任支援指導員を中心に内容の報告を受けて適宜助言・指導を行っている。支援員の役割について研修会を開催するなど、資質向上に努めている。

<三上副委員長>

支援員・補助員のアンケート調査を無記名で行うことも検討することを要望する。

<原野委員>

どうしても集団生活を乱して、退会する事例はあるか。

<社会教育課長>

現在のところ、退会に至ったケースはゼロである。

<竹内委員長>

現場の声を聞くことは非常に重要である。アンケート結果を分析して具体的な改善につなげるよう求める。

(質疑終了)

(教育部 退室)

14:20

(休憩)

14:20~14:30

3 この1年間を振り返って ~第18期後期1年目を振り返って~

14:30

《意見交流(自由討論)》

<福井委員>

子どもに関するテーマに自然とスポットが当たっていたが、研究する時間が不足していた。執行部からの行政報告が多く、3月議会の議案提出のための予備審議のような内容が多かった。

<竹内委員長>

「子どもに関する施策の充実について」というキーワードを軸に、権利や学びといった多角的な視点で議論が広がったと感じる。

<松山委員>

他市の先進的な取組を視察できたことはよかったが、現地視察時に本市の状況と視察内容を各委員が照らし合わせていたと思われるが、視察後に話し合いをしたが具体的なアクションがなかったのではないかと感じる。

<竹内委員長>

この常任委員会が行政報告が多いために、議論はしたが、研究して具体的な行動につなげる時間がなかった。

<浅田委員>

毎日のテレビ報道を見て、いじめの形態がSNSへの動画投稿や中学生が小学生をいじめ始める事案など時代と共に変化している。事態が深刻化する前に状況を把握し、対応が遅れないように方向性を見極める必要がある。今までのいじめの事象が変化しているので追って行く必要がある。

<小林委員>

いじめの発生について年齢が低下している傾向にある。低年齢層の実態把握が十分か懸念がある。視察した子どもオンブズパーソンの取組などは非常に参考になった。

<山本委員>

テーマに沿った先進地の行政視察や担当課との意見交換は有意義であった。給食や不登校に関する提言を出せたことがよかった。

<原野委員>

東京都小金井市の行政視察を通じて、被害生徒のみならず加害生徒への対応や情報モラル教育についても、多角的な視野で研究を深める必要性を感じた。

<三上副委員長>

前期と後期の委員の交代がなかったため、継続した議論が可能である。行政報告の時間を精査し、特定のテーマについて議論・提言する時間を意識的に確保すべきである。今のテーマを引き続くほうがよい。ICT導入の弊害・影響を見ていかなければなら

ない。いじめの多様化していること、不登校の未然防止策は進んでなく対処療法のみ行っている状況である。子どもが自主的に取り組んだ事業で学校が好きになったという成果を行政視察したいと思っている。前年度に視察先を調査した際に全て子ども福祉の分野で所管が異なったために実施出来なかった。議員としての任期最後の年となるので何らかの形を残したい。

<竹内委員長>

所管の枠を超えたヤングケアラーの問題をこども未来部と教育部の連携をした総務文教・環境市民厚生常任委員会協議会の開催も未実施であることから、来年度は同じテーマを研究することを重視する。テーマは「子どもに関する施策の充実について」を継続することでよいか。

ー全員了ー

14:50

4 その他

(1) 来年度行政視察先について

<竹内委員長>

本日、来年度のテーマを決定したので、この活動テーマに基づき来年度視察先候補地の検討を願う。事務局が過去5年間の視察先を一覧にまとめたので参考にされたい。視察先候補地は後日開催の特別議会で決まる新体制の下で、具体的な検討を行い、決定してきたいと思う。皆さんには行政視察先を事前に考えていただきたい。

(2) 次回の日程について

<竹内委員長>

次回の総務文教常任委員会は2月9日午前10時本会議終了後、議案審査となる。また、本会議等をはさみ、委員長の互選等行う。

<事務局次長>

2月11日(水・祝日)午前9時に京都中部広域消防組合議会で全員協議会が予定され、同日午前11時に定例会が予定されている。2月12日(木)午後3時に令和7年度第3回亀岡市防災会議が市民ホールで予定されている。2月9日午後正副委員長の互選と審議会委員等の選出があるがこの日から2～3日後の予定となるので事前に報告する。

<竹内委員長>

委員会を散会する。

散会 ~15:00